

この熟議で、一番良かったことは、みんなでいろいろなことを話し合えたことです。今までの話し合いより、とても本格的だったので、いろいろと言葉を思いついたりふせんに書くことが多くなったりして、みんなで協力できました。

熟議をして思ったことは、見た目以上に楽しくて、おもしろくて、とてもいい勉強になるということです。そのため、私のグループは『優笑』という言葉をつくることができました。できた時は、みんなで、「最高やん。これ、すごいやん。」とほめたりしました。

この子ども熟議をして、とても楽しく、いい勉強になりました。もし、できるのであれば、また子ども熟議をやりたいです。今日、話し合った「日本一の学校にする」をこれから努力し、日本一にできるよう頑張ります。

これは10月25日(火)、6年生120名全員で、「日本一いい学校」にするために、ぼくたち・私たちができることを熟議方式で話し合った後のSさんの感想です。思ったよりも楽しくて、おもしろくていい勉強になったことを書いています。そして、日本一にできるよう努力することを心に決めたいようです。

本校は、10月3日から新校舎に移り、新しい学校での生活を始めました。そこで、これを機に学校を共につくるという意識を喚起しようと計画しました。この熟議には、「人の話をよく聞く」「人を傷つけない。」など5つの話し合いのルールがあります。このルールを踏まえ、第1ラウンドで付箋紙に自分たちができることを書き、グループ内で一人ひとりが説明しました。他を傷つけないように、しっかり最後まで聞いている班が多く、たくさんの笑い声も聞かれました。第2ラウンドは、付箋紙に書かれたことを自分たちの基準で分類し、自分たちでがんばる意見を集約しました。「これは、エコに関係するよ。」「これは優しさにまとめられるよ。」など温かく話し合う空気が体育館一杯になりました。各班の発表は時間内によくまとめ、互いの発表もよく聞いていました。

最後に教育長さんから、「みなさんのやる気とアイデアがあれば日本一の学校になれる。今までのものも大切に、新しいことにチャレンジしてほしい。」と励ましの言葉をいただきました。

さらに、この熟議の意見を代表委員会にもっていき、日本一の学校にするためには、みんなであいさつをすることが大切ということを決めました。この6年生の意見で、あいさつ日本一をめざす全校集会も行い、6年生のあいさつに対する意識が下級生にも波及し、新校舎での新しい歴史を創ったようにも思います。

この子ども熟議をきっかけに本校の重点目標の一つの「子ども一人ひとりの学級や学校の生活を改善・創造する気持ちを喚起する。(新たな生活づくり)」に近づけることができたように思います。(芝)

自覚的にくらす子どもを育てる  
6年生子ども熟議(2011.10.25)



熟議の約束を聞く。



日本一いい学校にするために



がんばって話し合うぞ!



これとこれは関連するよね。



私たちの班の考えは